

# 洪吟

(二)

日本語版

李洪志



# 目 次

|          |    |
|----------|----|
| 堅定       | 1  |
| 無題       | 2  |
| 真性が顕れる   | 3  |
| 心自ずから明らか | 4  |
| 応報       | 6  |
| 法網       | 7  |
| 大穹を正す    | 8  |
| 普く照らす    | 9  |
| 悪を除く     | 10 |
| 無        | 11 |
| 留意       | 12 |
| 行中       | 13 |
| 大劫を解く    | 14 |
| 道を得て明白   | 15 |
| 迷わないで    | 16 |
| 道中を行く    | 17 |
| 執着を取り除く  | 18 |
| 阻むこと無し   | 19 |
| 縁結ばれて蓮咲く | 20 |
| 漸く斉う     | 21 |
| 真言       | 22 |
| 秋風涼し     | 23 |

|           |    |
|-----------|----|
| 預         | 24 |
| 大道行く      | 26 |
| 劫         | 27 |
| 掃除        | 28 |
| 必然        | 30 |
| 淘         | 31 |
| 大舞台       | 32 |
| 劇一台       | 33 |
| 精進し正しく悟る  | 34 |
| 法は乾坤を正す   | 35 |
| 大法は素晴らしい  | 36 |
| 鐘楼        | 38 |
| 鼓楼        | 39 |
| 佛法無辺      | 40 |
| 無生の門に入る   | 41 |
| 如来        | 42 |
| 正念正行      | 44 |
| 神の路難し     | 45 |
| 正神        | 46 |
| 天又清らか     | 47 |
| 震懾        | 48 |
| 早く講ず      | 49 |
| はっきりと目醒める | 50 |
| 誰か迷う      | 51 |
| 網収まる      | 52 |

|          |    |
|----------|----|
| 償えよ      | 53 |
| 神威       | 54 |
| 包围殲滅す    | 55 |
| 梅        | 56 |
| 下塵       | 58 |
| 大法行く     | 60 |
| 一念の中     | 62 |
| 唐風       | 63 |
| 好く見たまえ   | 64 |
| 学員の文章を読む | 65 |
| 乱世       | 66 |
| 正法見る     | 68 |
| 征        | 69 |
| 理智醒覚     | 70 |
| 金剛の志     | 71 |
| 法は一切を正す  | 72 |
| 龍泉寺      | 74 |
| 大法の徒     | 76 |
| 法輪は常に轉ず  | 78 |
| 洪誓大願     | 79 |
| 大穹を救う    | 80 |
| 劫数       | 81 |
| 危        | 82 |
| 蓮        | 83 |
| 断        | 84 |

|           |    |
|-----------|----|
| 香蓮        | 85 |
| 法が人間界を正す時 | 86 |
| 蠢か        | 87 |
| 哀しむなかれ    | 88 |
| 腰鼓隊       | 89 |
| 難         | 90 |
| 師徒の恩      | 91 |
| 神 目醒めよ    | 92 |
| 天門は已に開く   | 93 |
| 何を恐れんや    | 94 |
| 轉輪        | 95 |
| 洪劫        | 96 |



## けん てい 堅 定

かくご  
覚悟した者、世を出で尊師と為り

精進する修煉者、心篤くして、圓滿す

巨難の中、必ず確固たるべし

精進の決意は変わるべからず

一九九九年五月三日

二〇〇四年二月修正

## 堅 定

覺悟者出世為尊

精修者心篤圓滿

巨難之中要堅定

精進之意不可轉

一九九九年五月三日

二零零四年二月修改



## 無題

ダーファー  
大法は人心を見る

せじん  
世人は目覚めるべし

しん じん き ちく  
神、人、鬼、畜になるか、滅されるか

位置は自らが定める

一九九九年五月三日  
二〇〇四年二月修正

## 無題

大法看人心

世人要清醒

神人鬼畜滅

位置自己定

一九九九年五月三日  
二〇〇四年二月修改



しんせい  
真性が顕れる

ダーファー  
大法を堅く修めて、心動かず

次元を向上することこそ、是れ根本

試練を前にして、真性が顕れる

功成り圓滿して、佛、道、神となる

一九九九年五月八日

見真性

堅修大法心不動

提高層次是根本

考驗面前見真性

功成圓滿佛道神

一九九九年五月八日



## おの 心自ずから明らか

法は衆生を済度し、師はこうろ航路を導く

一つの帆ほのぼ昇れば、億の帆あが揚がる

執着を放下すれば、けいしゅうはや輕舟快し

人心ほんぞく凡俗で重ければ、ようす洋を過ぐるかたこと難し

風雲突如として変わり、天墜ちんとし

山を排し、海をつ搗く荒波ひるがえが翻る

ダーファー大法を堅く修めて、しっかりと師にしたが随う

## 心自明

法度眾生師導航

一帆升起億帆揚

放下執著輕舟快

人心凡重難過洋

風雲突變天欲墜

排山搗海翻惡浪

堅修大法緊隨師



執着重過ぎれば、方向に迷い  
船<sup>かえ</sup>翻り帆断たれ、命<sup>のが</sup>を逃れて去る  
泥<sup>でい</sup>沙<sup>さ</sup>淘<sup>よな</sup>げ尽くされ、金<sup>きん</sup>光<sup>こう</sup>顕れる  
生死は、大<sup>たい</sup>言<sup>げん</sup>を説<sup>あら</sup>くに非<sup>ず</sup>ず  
能<sup>よ</sup>く出来るかどうか、真相を見る  
待ち到<sup>た</sup>る他<sup>じつ</sup>日、圓満の時  
真相大いに顕れて、天下<sup>ぼう</sup>茫<sup>たり</sup>たり

一九九九年十月十二日  
二〇〇〇年五月二十二日発表

執著太重迷方向  
船翻帆断逃命去  
泥沙淘盡顯金光  
生死非是說大話  
能行不行見真相  
待到它日圓滿時  
真相大顯天下茫

一九九九年十月十二日  
二〇〇〇年五月二十二日發表



## 応報

まつせ らんき  
末世に爛鬼多し

人の皮を被<sup>かぶ</sup>りて

間隔を除き尽くすと

せじょう ゆなべ  
世上に油鍋が用意されている

二〇〇〇年九月一日  
庚辰年八月四日

## 報應

末世爛鬼多

披著人皮作

間隔一除盡

世上擺油鍋

二〇〇〇年九月一日  
庚辰年八月四日



ほう もう  
法 網

ミンフイ  
明慧、縁がある者を済度し

のうちゅう  
新生、脳中の悪を取り除く

とうひつ うれ しょう  
人民、刀筆は鬼に愁いを生ぜしめ

ファールンダーファー こ  
法 輪大法は是れ、正見

二〇〇一年一月十七日

庚辰年十二月二十三日

法 網

明慧救度有縁者

新生可去腦中惡

人民刀筆鬼生愁

法輪大法是正見

二零零一年一月十七日

庚辰年十二月二十三日



だいぎゅう  
大穹を正す

邪悪は幾時はびこってられるか

衆生の志、尽く顕れる

此の劫、誰か外に在る

衆神の癡なるを笑って見る

二〇〇一年二月十日  
辛巳年正月十八日

正大穹

邪惡逞幾時

盡顯眾生志

此劫誰在外

笑看眾神癡

二零零一年二月十日  
辛巳年正月十八日



あまね  
普く照らす

神佛、世上<sup>ゆ</sup>を行き  
邪惡の心に愁<sup>うれ</sup>い生ず  
乱世<sup>ダーファー</sup>を大法が解き  
世の墜落<sup>だらく</sup>を望<sup>ふさ</sup>ぎ截<sup>き</sup>る

二〇〇一年二月十七日  
辛巳年正月二十五日

普照

神佛世上走  
邪惡心生愁  
亂世大法解  
截室世下流

二零零一年二月十七日  
辛巳年正月二十五日



## 悪を除く

車<sup>ゆ</sup>行きて、十万里

剣<sup>ふる</sup>を揮い、悪を消すこと急

天傾きて、掌<sup>しょう</sup>を立てて撃<sup>ささ</sup>え

法は正しく、陰<sup>いん</sup>權<sup>り</sup>を去<sup>さ</sup>る

二〇〇一年二月十九日

辛巳年正月二十七日

## 除惡

車行十萬里

揮劍消惡急

天傾立掌撃

法正去陰懼

二零零一年二月十九日

辛巳年正月二十七日



無

無、無、無、何も無し

善無く、悪無く、極<sup>きわ</sup>み出る

進めば、則ち<sup>すなわち</sup>万物<sup>ばんぶつ</sup>と成る可<sup>べ</sup>し

立ち去れば、何も無く永遠の謎なり

二〇〇一年二月二十二日

無

無無無空無東西

無善無惡出了極

進則可成萬萬物

退去全無永是迷

二〇〇一年二月二十二日



## 留意

いちろ せいじん  
一路の征塵、一路の風

よろず  
萬の悪を除き尽くして、萬の衆生が生ず

ろう つと えんおん  
心を勞し力めて解く、淵怨の事

えがた  
景色を楽しむ心も得難し

二〇〇一年二月二十二日

## 留意

一路征塵一路風

萬惡除盡萬眾生

勞心力解淵怨事

難得歡心看風景

二〇〇一年二月二十二日



## 行 中

てんがい どこ  
天涯、何処か険しき

きょうちゅう  
一覽す、峽中の天を

たず  
神仙を何処に尋ぬ

し  
対面すれども、仙と識らず

二〇〇一年二月二十二日

アメリカの大峽谷にて

## 行 中

天涯何處險

一覽峽中天

神仙何處尋

對面不識仙

二〇〇一年二月二十二日

於美國大峽谷



だいごう  
大劫を解く

多くの人間の乱れし事

じゅうじゅう おんえん けいれき  
重々なる恩怨を経歴す

心悪く、業大きく、望み無し

ダーファー えんげん  
大法はすべての淵源を解く

二〇〇一年二月二十二日

解大劫

多少人間亂事

歷經重重恩怨

心惡業大無望

大法盡解淵源

二〇〇一年二月二十二日



# どう 道を得て明白

いっちょう  
一朝の天子、一朝の衆

ちょうちょう  
朝 朝縁を結び、法を等つ

こんちょう  
今朝のどんな事にも管わる別れ

ばんじつう  
圓滿して家に帰れば、万事通

二〇〇一年二月二十四日

# 得道明

一朝天子一朝衆

朝朝接縁把法等

別管當朝縁中事

圓滿回家萬事通

二〇〇一年二月二十四日



## 迷わないで

誰が天の主<sup>しゅ</sup>か

層層を離れて法徒<sup>ほうと</sup>になり

自らの命<sup>いのち</sup>は天穹<sup>てんきゅう</sup>を主宰<sup>しゅざい</sup>す

帰位<sup>きい</sup>の時、已<sup>すで</sup>に近し

誰がまだ目醒めないのか

二〇〇一年三月十四日

## 無迷

誰是天之主

層層離法徒

自命主天穹

歸位期已近

看誰還糊塗

二零零一年三月十四日



どうちゅう ゆ  
道中を行く

だいどう  
大道、世間を行く

迷いの中、衆生を救い済度す

名、情、利を<sup>よな</sup>淘ぎ去れば

いかなる難も聖人になることを<sup>はば</sup>阻まん

二〇〇一年三月十九日

道中行

大道世間行

救度迷中生

淘去名情利

何難能阻聖

二〇〇一年三月十九日



## 執着を取り除く

修煉の事と言うなら

心の中の執着を取り除くべし

切り捨てることは本当の自己には非<sup>あら</sup>ず

それらすべて迷いの中の癡<sup>ち</sup>

二〇〇一年四月十六日

辛巳年三月二十三日

## 去執

雖言修煉事

得去心中執

割捨非自己

都是迷中癡

二零零一年四月十六日

辛巳年三月二十三日



はば  
阻むこと無し

修煉の路、同じからず

すべて大法の中に在り

万事執着無ければ

脚下に路、自ら通ず

二〇〇一年四月十六日

辛巳年三月二十三日

無阻

修煉路不同

都在大法中

萬事無執著

腳下路自通

二零零一年四月十六日

辛巳年三月二十三日



## 縁結ばれて蓮咲く<sup>はす</sup>

風流人物、今何処<sup>いずこ</sup>に在る

大<sup>ダー</sup>法<sup>ファー</sup>開<sup>かい</sup>壇<sup>だん</sup>して、相繼いで来る

歳<sup>さい</sup>月<sup>げつ</sup>悠々、千<sup>せん</sup>百<sup>びやく</sup>年

縁を結び、正<sup>しょう</sup>果<sup>うか</sup>を得て、衆<sup>しゅう</sup>蓮<sup>うれん</sup>咲く

二〇〇一年六月十九日

## 縁結蓮開

風流人物今何在

大法開壇相繼來

歲月悠悠千百度

縁結正果衆蓮開

二零零一年六月十九日



ようや そろ  
漸く齊う

あくろうひるがえ うち かすみ  
悪浪 翻る中、霞の跡を見る

かくこう ごうすう  
各項の劫数、已に漸く齊う

そうきゅう けんこん  
蒼穹、法正して、乾坤定まり

しらみ きさし つま  
世間に返還し、虱と蟻を招む

二〇〇一年七月十七日

漸 齊

悪浪翻中見霞跡

各項劫數已漸齊

蒼穹法正乾坤定

返還世間招蝨蟻

二〇〇一年七月十七日



# しん こん 真 言

神佛、世間に来て  
句句、真言を語る  
天、地、人、神の事  
真機は法を伝える為なり

二〇〇一年八月十九日

# 真言

神佛來世間  
句句吐真言  
天地人神事  
真機為法傳

二零零一年八月十九日



しゅうふうすず  
秋風涼し

邪惡の徒、慢りて猖狂す

天地再び明るめば、沸き立つ湯に下される

けんきやく 拳脚は人心を動かし難し

きょうふう 狂風は、更に涼しき秋を招く

二〇〇一年十月二十五日

秋風涼

邪惡之徒慢猖狂

天地復明下沸湯

拳脚難使人心動

狂風引來秋更涼

二〇〇一年十月二十五日



## 預

秋去らざるに 春已に到る  
人信ぜずも 全て到来す  
天は口を開け 大地が焼ける

## 預

秋不去 春已到  
人不信 全來到  
天開口 大地焼



邪悪は身を隠し 悪人が逃れる

功は湧進し 鬼は哭き吠える

ダーファー 九霄に上り

天地を主宰し、人道を正す

二〇〇一年十二月三十日

邪悪躲 坏人逃

功湧進 鬼哭嚎

大法徒 上九霄

主掌天地正人道

二零零一年十二月三十日



だいどう ゆ  
大道行く

目を挙げて青天を望めば

こうび こ まなこ  
洪微みな是れ眼

あつま ところ  
上下焦点の聚る処

大道世間を行く

二〇〇二年一月十五日

大道行

舉目望青天

洪微皆是眼

上下聚焦處

大道行世間

二零零二年一月十五日



ごう  
劫

あんあん いんうん いくにちにご  
黯黯たる陰雲、幾日渾る

げんかんことごと ゆ  
嚴寒 尽く逝きて、已に春を見る

きょうしん  
衆生醒めて見る、驚心の事

ちゅうげん さじん おお  
中原の半ばが、砂塵に覆われる

二〇〇二年一月二十二日

劫

黯黯陰雲幾日渾

嚴寒盡逝已見春

衆生醒見驚心事

中原半壁覆沙塵

二〇〇二年一月二十二日



## 掃除

いんうん  
陰雲過ぎ 風なお激し

せきりゆう  
赤龍切らるるも 人なお迷う

邪惡の処 いんばい  
陰霾あり

## 掃除

陰雲過 風還急

赤龍斬 人還迷

邪惡處 有陰霾



ダーファー  
大法の徒 片手の掌を立て

残った悪を除き 正念が起こる

真相を講じて 衆生を救う

悪を滅し尽くし 寰宇を掃く

二〇〇二年一月二十三日

大法徒 單掌立

除餘惡 正念起

講真相 救眾生

滅惡盡 掃寰宇

二〇〇二年一月二十三日



## 必然

諸悪一齊に下<sup>くだ</sup>って、何と狂うものか

世<sup>あざむ</sup>を欺く大嘘、天<sup>おお</sup>を翻<sup>ひるがえ</sup>し舞い上がる

人世<sup>じんせ</sup>の醜悪の役を演じ、颯風<sup>ひょうふう</sup>を発し尽くし

大法<sup>ダーファー</sup>を際立たせた後<sup>のち</sup>に、湯に下される

二〇〇二年一月三十日

## 必然

眾惡齊下何等狂

欺世大謊翻天揚

戲做人丑發盡颯

烘托大法後下湯

二〇〇二年一月三十日



## 淘

天傾き、地覆い、砂塵落つ

凡世の幾億人を毒害す

慈悲で救い済度されるはどれほどか

中原の処々に、新墳が増える

二〇〇二年一月三十一日

## 淘

天傾地覆落沙塵

毒害凡世幾億人

慈悲救度知多少

中原處處添新墳

二〇〇二年一月三十一日



## 大舞台

人の世、五千年

中原は是れ舞台

心は劇中の事に夢中になり

陸離<sup>りくり</sup>として多様多彩

醒めてから、あなたと私を見れば

舞台は法の為に設けられている

二〇〇二年二月一日

## 大舞台

人世五千載

中原是戲台

心癡戲中事

陸離多姿彩

醒來看你我

戲台為法擺

二零零二年二月一日



## 劇一台

天は幕と作り 地は是れ舞台

乾坤を運行し 天地開く

ばんこ  
万古の事 法の為に来る

ファールン  
法輪轉じて 新たな三才

二〇〇二年二月五日

## 戲一台

天作幕 地是台

運乾坤 天地開

萬古事 為法來

法輪轉 新三才

二零零二年二月五日



## 精進し正しく悟る

学法を怠らざれば、変化は其の中に在り

堅信して動かざれば、正果になり蓮が成る

二〇〇二年四月六日

## 精進正悟

學法不怠變在其中

堅信不動果正蓮成

二〇〇二年四月六日



## 法は乾坤を正す

慈悲は天地を溶かし春をもたらす

正念は世中<sup>せちゆう</sup>の人を救<sup>べ</sup>う可し

二〇〇二年四月六日

## 法正乾坤

慈悲能溶天地春

正念可救世中人

二零零二年四月六日



ダーファー  
大法は素晴らしい

ファールンダーファー  
法輪大法は素晴らしい

大穹、<sup>ほうこう</sup>法光が照らす

法を正す洪大な勢いが過ぎ

<sup>まさ</sup>方に知る無限の妙

大法好

法輪大法好

大穹法光照

正法洪勢過

方知無限妙



ファールンダーファー

法輪大法は素晴らしい

徐々に世人の道に入りゆく

衆生は切に急ぐこと莫れ

神佛は已に笑っている

二〇〇二年四月二十五日

法輪大法好

漸入世人道

衆生切莫急

神佛已在笑

二〇〇二年四月二十五日



しょうろう  
鐘 楼

こうせい ほっかい  
洪声、法界を震わし

じっぼう  
法音、十方に伝わる

二〇〇二年五月五日

鐘 樓

洪聲震法界

法音傳十方

二零零二年五月五日



# こ ろう 鼓 楼

じゅうすい もと  
重錘の下、精進を知る

ほつくたた  
法鼓敲いて、迷いの中の人を醒ます

二〇〇二年五月五日

# 鼓 楼

重錘之下知精進

法鼓敲醒迷中人

二零零二年五月五日



## 佛法無辺

こうろ  
香炉は法を乱す鬼を収め尽くし

ほうてい      ようか  
宝鼎は不法な神を熔化す

二〇〇二年五月五日

## 佛法無邊

香爐盡收亂法鬼

寶鼎熔化不法神

二〇〇二年五月五日



むしろう  
無生の門に入る

虎に<sup>またが</sup>騎りて、虎より<sup>お</sup>下り<sup>がた</sup>難し

人が神に賭けんとす

<sup>あくしや</sup>悪者、事をやり尽くし

自ら<sup>せいろ</sup>生路を<sup>ふさ</sup>塞ぎ切る

二〇〇二年五月十三日

入無生之門

騎虎難下虎

人要與神賭

惡者事幹絕

堵死自生路

二零零二年五月十三日



如 来

如意、真理を帯びて来る

しゃだつ しかい  
洒脱として、四海を歩む

如 來

帶著如意真理來

灑灑脫脫走四海



法理を世間に遍く撒き散らし

衆生を満載して、ほうせん しゅつぱん法船は出帆す

二〇〇二年五月十三日

法理撒遍世間道

満載眾生法船開

二零零二年五月十三日



しょうねんしょうぎょう  
正念正行

大覚は苦を畏れず

意志は金剛より鑄られる

生死に執着無く

堂々たり正法の路

二〇〇二年五月二十九日

正念正行

大覺不畏苦

意志金剛鑄

生死無執著

坦蕩正法路

二〇〇二年五月二十九日



神の<sup>みちかた</sup>路難し

悠々たる<sup>ばんせい</sup>万世の縁

<sup>ダーファー</sup>大法の一線<sup>ひ</sup>で牽く

難中<sup>こんたい</sup>に金体を煉し

<sup>なにゆえ</sup>何故のんびりと歩むのか

二〇〇二年五月三十日

神路難

悠悠萬世縁

大法一線牽

難中煉金體

何故步姍姍

二〇〇二年五月三十日



しょうしん  
正神

正念正行

精進<sup>と</sup>停<sup>と</sup>まらず

法を乱す鬼を除き

衆生<sup>よ</sup>を善<sup>ぐう</sup>く遇<sup>ぐう</sup>す

二〇〇二年五月三十日

正神

正念正行

精進不停

除亂法鬼

善待衆生

二〇〇二年五月三十日



## 天又清らか

<sup>こんこん</sup>天昏昏、<sup>あんあん</sup>地暗暗

<sup>しんらいさ</sup>神雷炸けて、<sup>いんばい</sup>陰霾散ず

法を乱す<sup>らんき</sup>爛鬼を一掃するに

慈悲の心、<sup>あわ</sup>淡きと説くなかれ

二〇〇二年六月十六日  
米国中部法会に寄せて

## 天又清

天昏昏地暗暗

神雷炸陰霾散

横掃亂法爛鬼

別説慈悲心淡

二〇〇二年六月十六日

寫給美國中部法會



しんしょう  
震 懾

しんびつ じんよう ふる  
神筆、人妖を震わし

かいとう らんき  
快刀、爛鬼を消す

旧勢力、法を敬わず

きごう きょうとう  
揮毫して、狂濤を滅す

二〇〇二年七月二十八日

震 懾

神筆震人妖

快刀爛鬼消

舊勢不敬法

揮毫滅狂濤

二〇〇二年七月二十八日



## 早く講ず

ダーファー  
大法の徒、真相を講ず

こうちゅう りけん  
口中の利剣、一斉に放つ

らんき  
爛鬼の嘘を暴き出し

急いで救い済度し、早く講ず

二〇〇二年八月二十一日

## 快講

大法徒講真相

口中利剣齊放

揭穿爛鬼謊言

抓紧救度快講

二〇〇二年八月二十一日



## はっきりと目醒める

ダーファー 大法の徒 涙を拭い去る

サタンの魔 全て崩潰す

真相を講じ 正念を発し

嘘を暴き 爛鬼を一掃す

二〇〇二年九月一日

## 清醒

大法徒 抹去淚

撒旦魔 全崩潰

講真相 發正念

揭謊言 清爛鬼

二零零二年九月一日



## 誰か迷う

<sup>さいさい</sup>細々<sup>じんあい</sup>微々たる一塵埃

<sup>ぞうか</sup>造化の衆生は<sup>どちゆう</sup>土中<sup>うず</sup>に埋まる

迷いの中、世人は法を得られ

<sup>ぐきよう</sup>愚狂は<sup>かえ</sup>反って、<sup>じんせ</sup>塵世の外に在り

二〇〇二年九月五日

## 誰迷

細細微微一塵埃

造化眾生土中埋

迷中世人能得法

愚狂反在塵世外

二〇〇二年九月五日



あみ  
網収まる

暴悪は幾時<sup>いくとき</sup>まで狂うか

秋風<sup>しゅうふう</sup>、已に涼し

爛鬼<sup>らんき</sup>、心<sup>しん</sup>膽<sup>たん</sup>寒し

末日<sup>まつじつ</sup>、絶望を見る

二〇〇二年九月十四日

網在收

暴惡幾時狂

秋風已見涼

爛鬼心膽寒

末日看絶望

二零零二年九月十四日



## 償えよ

十年のでんぼう伝法、だいもん大門が開けども

どれほどの衆生が入って来られず

世間に迷いて、もと本を忘れ

狂風起こる時、付き従って悪くなる

二〇〇二年十二月十二日

## 還吧

十年傳法大門開

多少眾生進不來

迷在世間忘了本

狂風起時隨著壞

二〇〇二年十二月十二日



## 神 威

じんしょうむさん  
塵 消霧散して、気漸く清し

世人迷いより醒めて、眼中驚く

ダーファー  
大法の洪勢、人世に満ち溢れ

再び見る、神佛の世上を行くを

二〇〇二年十二月二十八日

壬午年十一月二十五日

## 神 威

塵消霧散氣漸清

世人迷醒眼中驚

大法洪勢漫人世

再看神佛世上行

二〇〇二年十二月廿八日

壬午年十一月廿五日



## 包<sup>せんめつ</sup>囲殲滅す

天地ひっくり返り、人妖<sup>じんよう</sup>の邪<sup>じゃ</sup>

世<sup>あざむ</sup>を欺<sup>おお</sup>く大嘘<sup>おおうそ</sup>の陰風<sup>いんふう</sup>は切なり

ダーファー<sup>ダーファー</sup> 衆徒<sup>しゅうと</sup>、真相<sup>しんじょう</sup>を講じて

正念<sup>しやうねん</sup>の法力<sup>ほうりき</sup>、妖穴<sup>ようけつ</sup>を搗<sup>つ</sup>く

二〇〇三年一月二十三日

## 圍剿

天翻地覆人妖邪

欺世大謊陰風切

大法眾徒講真相

正念法力搗妖穴

二〇〇三年一月二十三日



## 梅 元曲

じよくせ せいれん  
濁世に清蓮億万の梅

寒い風の中、姿は更に青翠なり

うせつ  
連日の雨雪は神佛の涙のよう

待ち望む梅の帰るを

## 梅 元曲

濁世清蓮億萬梅

寒風姿更翠

連天雪雨神佛淚

盼梅歸



せちゅう      ごと      なか  
世中の執着事に迷う勿れ

正念を堅く定め

いにしえ  
古より今まで

只この一回の為なり

二〇〇三年一月二十八日

勿迷世中執著事

堅定正念

從古到今

只為這一回

二零零三年一月二十八日



## かじん 下塵

ファールン  
法輪が転じる時、必ず狂有り

国力を傾け尽くして、吾<sup>われ</sup>の為に忙しがる

うしかど ようぎ  
丑角の妖戯、尽きるを静観し

ざんど  
残土が風の中で舞い揚がるに過ぎない

## 下塵

法輪轉時必有狂

國力傾盡為吾忙

靜觀丑角妖戲盡

只剩殘土風中揚



輪廻五千年の雲と雨

ほうじん<sup>の</sup>封塵を払い除けて、長短を見る

大いなる劇は、誰か<sup>こ</sup>是れ風流<sup>ぬし</sup>の主

只衆生の為に、<sup>いちじょう き</sup>一場来たれり

壬午年臘月二十九日  
二〇〇三年一月三十一日

輪廻五千雲和雨

揮去封塵看短長

大戲誰是風流主

只為眾生來一場

壬午年臘月二十九日  
二〇〇三年一月三十一日



ダーファー ゆ  
大法行く 宋詞

ファールンダーファー  
法輪大法

深きこと測り知れず

大いなる蒼穹<sup>そうきゆう</sup>を成し

衆生を造る

三字<sup>しんごん</sup>の真言

理明白で、言明<sup>げん</sup>晰

常人<sup>おもて</sup>その表を知れば、厚福<sup>こうふく</sup>を得<sup>う</sup>

官吏<sup>かんり</sup>その浅きを知れば、明<sup>めい</sup>にして鏡<sup>ごと</sup>の如し

王、その理を知れば

安邦<sup>あんぱうちこく</sup>治国

太平を得

大法行 宋詞

法輪大法

深未測

成大蒼穹

造衆生

三字真言

理白言明

常人知表得厚福

官吏知淺明如鏡

王知理

安邦治國

得太平



せいせい  
盛世が現れ

君臣も正し

いんぷく  
陰福を延ばし

民は安定し

五穀年々豊か

しゅうしゃ  
修者は更に明らか

いっちょう い  
一朝法を得て、道中に入る

精進実修して、功法成就する

迫害に反し

衆生を救度し

神の道を行く

二〇〇三年三月二日

癸未年正月三十日

出盛世

君臣正

延陰福

民安定

五穀年年豊

修者更明

一朝得法入道中

精進實修功法成

反迫害

救度衆生

神道行

二〇〇三年三月二日

癸未年正月三十日



## 一念の中<sup>うち</sup>

たんたんとうとう だいぎゅう  
坦坦蕩蕩として、大穹を正す

ともな われ ゆ  
巨難 伴って、我天地を行く

功德を成就すは、心にあらず

天を正し地を正し、衆生を正す

こうがん  
真念洪願、金剛の志

だいこう  
大洪を再び造るは、一念の中

癸未年五月十三日

## 一念中

坦坦蕩蕩正大穹

巨難伴我天地行

成就功德腦後事

正天正地正眾生

真念洪願金剛志

再造大洪一念中

癸未年五月十三日



## 唐 風

身は此<sup>こ</sup>の山中に在りて  
神思<sup>しんし</sup>は仙境<sup>おとず</sup>を訪れる  
誰か是<sup>こ</sup>れ古<sup>いにしえ</sup>の中原  
大唐風<sup>だいとうふう</sup>を知らず

癸未六月

## 唐 風

身在此山中  
神思遊仙境  
誰是古中原  
不知大唐風

癸未六月



## 好く見たまえ

世間小なりと雖も <sup>いえど</sup> 大穹を <sup>だいぎゅう ことごと</sup> 尽く照らす  
満天是れ眼 <sup>こ まなこ しゅうしん</sup> 衆神焦点をあてる  
<sup>きゅうそう</sup> 穹蒼はもう一度組まれ 乾坤を再び造る  
<sup>なんじ</sup> 爾も要る彼も要る 悲しみ可笑しい  
<sup>ほうしゅ</sup> 法主は穹を正して 何物が逃れる <sup>べ</sup> 可しか

二〇〇三年六月十九日

## 看好

世間雖小 大穹盡照  
満天是眼 衆神聚焦  
穹蒼從組 乾坤再造  
爾要它要 可悲可笑  
法主正穹 何物可逃

二〇〇三年六月十九日



## 学員の文章を読む

鋭い筆鋒<sup>ひつぼう</sup>で、華章<sup>かしやう</sup>を著<sup>あらわ</sup>し

語は力強く、文は奥深し

科学は満身<sup>ほん</sup>の洞

悪党<sup>こども</sup>の衣はそっくり剥<sup>は</sup>ぎ取られる

二〇〇三年七月二十二日

## 讀學員文章

利筆著華章

詞勁句蘊強

科學滿身洞

惡黨衣扒光

二〇〇三年七月二十二日



## 乱世 宋詞

中原上下五千年

朝朝代代、新顔に換わる

まつせ とう  
末世、天に道無く

悪を行い、又妖を行う

## 亂世 宋詞

中原上下五千年

朝朝代代換新顔

末世天無道

行惡又行妖



さいろう  
豺狼、世を横行し

乱党を妖が率先す

悪、報われずにあらず

洪勢すぐに到来す

二〇〇三年八月一日

豺狼世上走

亂黨妖領頭

不是惡不報

洪勢就來到

二〇〇三年八月一日



しょうぼう  
正法見る 宋詞

漢室の天下は韓信が打ち取り

大唐太宗の朝は疆<sup>きょう</sup>大

岳飛、六郎は中原を保つ

何の為か

衆生<sup>ここ</sup>此に来て法を得んとす

二〇〇三年八月十五日

正法看 宋詞

漢室天下韓信打

大唐太宗朝疆大

岳飛六郎保中原

為了啥

眾生來此要得法

二零零三年八月十五日



## せい 征

万里馳驅<sup>ちく</sup>して、妖陣を破る

黒手<sup>くろて</sup>を斬り尽くして、悪神を除く

大霧<sup>たいむ</sup>にせよ、狂風舞うにせよ

一路の山雨<sup>さんう</sup>、征塵<sup>せいじん</sup>を洗う

二〇〇三年九月二日

## 征

馳騁萬里破妖陣

斬盡黒手除惡神

管你大霧狂風舞

一路山雨洗征塵

二零零三年九月二日



# 理智<sup>せい</sup>醒<sup>かく</sup>覺

少しく休み<sup>じせい</sup>自省して、正念<sup>そ</sup>を添う  
不足<sup>めいせき</sup>を明析して、再び精進す

二〇〇三年九月四日

# 理智醒覺

少息自省添正念  
明析不足再精進

二零零三年九月四日



## 金剛の志

秋高く、気は段々と清らか

<sup>あいあい</sup>靄<sup>いんばい</sup>靄たる陰霾過ぎ

指<sup>じ</sup>折り<sup>じつ</sup>て時<sup>かぞ</sup>日を算え

大穹去るは多からず

衆を迷<sup>おのおの</sup>わせ各々<sup>たくま</sup>乱を逞しくす

巨大な危険、迫<sup>せま</sup>れども知らず

崩壊の前に全力で挽回し

<sup>らんき</sup>爛<sup>かがい</sup>鬼の禍害をなぜ許す

志の念は金剛を超え

<sup>こうび</sup>洪微<sup>こ</sup>は是<sup>われ</sup>れ我<sup>な</sup>が做す

二〇〇三年九月四日

## 金剛志

秋高氣漸清 靄靄陰霾過

時日掐指算 大穹去無多

迷眾各逞亂 巨危不知迫

力挽崩裂前 怎容爛鬼禍

志念超金剛 洪微是我做

二零零三年九月四日



## 法は一切を正す

三界の外へしょうしゅつ衝出し

空無にだいう大字顕れる

法は乾坤を正して久しく

休まんとすれば悪又起こる

しだい四大は已に風化し

旧法は解体しつつある

## 法正一切

衝出三界外

空無顯大字

法正乾坤久

預歇惡又起

四大已風化

舊法在解體



天体は無限に大きく

<sup>かんたい</sup> 寰体は又極めて<sup>ひろ</sup> 洪し

大穹は已に去ること遠し

<sup>し ゆ い</sup> 主位は更に<sup>けんれい</sup> 絢麗なり

<sup>てんせい</sup> 天性の豪氣、洪たり

<sup>しょうま</sup> 消磨すれども去らず

意は金剛の志の如く

<sup>ダーファー</sup> 大法の理を<sup>いっとう</sup> 一統す

二〇〇三年九月二十日

天體無限大

寰體又洪極

大穹已去遠

主位更絢麗

天性豪氣洪

消磨也不去

意如金剛志

一統大法理

二零零三年九月二十日



## 龍泉寺

壯麗たる古刹、密林の間

あさもや  
朝靄が湖面に立ち込めている

## 龍泉寺

壯麗古刹密林間

晨霧繚繚起湖面



ろうだいていかく はくうん した  
楼台亭閣、白雲の下

唐風の新しい寺に、真仙有り

二〇〇三年九月三十日

樓台亭閣白雲下

唐風新寺有真仙

二零零三年九月三十日



ダーファー  
大法の徒 宋詞

ダーファー  
大法の徒

中原にて難を蒙り

天地は無道、爛鬼狂う

正法の洪勢、眼前に在り

法は人の世を正す

大法徒 宋詞

大法徒

蒙難在中原

天地無道爛鬼狂

正法洪勢在眼前

法正人世間



ダーファー  
大法の徒

重き任を肩に担う

衆生を救度し、真相を講じ

毒害をすっかり取り除いて、法は無辺

神の路はさほど遠からず

二〇〇三年十月一日

大法徒

重任擔在肩

救度眾生講真相

清除毒害法無邊

神路不算遠

二〇〇三年十月一日



ファールン  
法輪は常に轉ず

ダーファー  
大法は圓容にして、乾坤を正し  
法王は慈悲にして、大穹を造る

二〇〇三年十月三日

法輪常轉

大法圓容乾坤正  
法王慈悲造大穹

二零零三年十月三日



こうせいたいがん  
洪誓大願

そうそう へんれき こうがんりょう  
滄桑を遍歴して、洪願了す  
さだ うち  
歲月蹉跎にして、一念の中

二〇〇三年十月七日

洪誓大願

歷盡滄桑洪願了  
歲月蹉跎一念中

二零零三年十月七日



## 大穹を救う

古今かつて有<sup>あ</sup>らず

将来天地久し

恆<sup>こうこ</sup>古たる大穹蒼を見て

誰かまた敢えて再び下<sup>げそう</sup>走す

二〇〇三年十月十二日

## 救大穹

古今不曾有

將來天地久

看恆古大穹蒼

誰還敢再下走

二〇〇三年十月十二日



ごう すう  
劫 数 元曲

中原の大地

五千年の文明

ふうろう や  
風浪止まらず

西より幽霊来たり

衆生を害し

古風を破壊す

人は早く醒めよ

ダーファー  
神州では大法が動き出す

二〇〇三年十一月十一日

劫 数 元曲

中原大地

五千文明

風浪不止

西來幽霊

害衆生

破古風

人快醒

神州大法開行

二〇〇三年十一月十一日



## 危

世の気風、日増しに下り、衆助長す  
爛鬼<sup>らんき</sup>率先して、人々が後<sup>あと</sup>に付き従う  
我<sup>われ</sup>は世人のために愁<sup>うれ</sup>うるも  
人<sup>おのれ</sup>は己のために憂<sup>うれえ</sup>ず

二〇〇三年十一月二十日

## 危

世風日下衆助流  
爛鬼帶頭人跟走  
我為世人愁  
人不為己憂

二〇〇三年十一月二十日



はす  
蓮 元曲

ばんりん じょうれん われ う  
万輪の浄蓮を、我が栽す

厳寒の中、雪に屈せず、一斉に咲く

天晴れ、園に満ちて、春來たる

せんし ひやくたい  
仙枝百態

こうふう し ひょう  
香風沁みて、天外に飄す

二〇〇三年十二月一日

蓮 元曲

萬朵淨蓮我栽

嚴寒傲雪齊開

天晴滿園春來

仙枝百態

香風沁飄天外

二〇〇三年十二月一日



## 断 元曲

しゅう  
修 難しからず

こころ がた  
心 去り難し

幾多の執着は何時に断つ

皆も知る苦海、総て岸無しを

かた  
意志堅からざれば

かん  
関は山に似て

ぼん い  
如何に凡を出づるか

二〇〇四年一月一日

## 斷 元曲

修不難

心難去

幾多執著何時斷

都知苦海總無岸

意不堅

關似山

咋出凡

二零零四年一月一日



こう れん  
香 蓮

じょうれん  
浄 蓮法中に生ず

慈悲にて香風を散らし

せじょう かんろ そそ  
世上に甘露を洒ぎ

蓮は開いて<sup>てんてい</sup>天庭に<sup>み</sup>満つ

二〇〇四年元旦

香 蓮

浄蓮法中生

慈悲散香風

世上洒甘露

蓮開満天庭

二零零四年元旦



## 法が人間界を正す時

らんき  
爛鬼已に絶滅し  
のうけつ  
黒手は膿血に化す  
世人のやった事  
あくえき  
必ずや悪疫に遭う

二〇〇四年一月一日

## 法正人間時

爛鬼已滅絶  
黒手化膿血  
世人幹的事  
必遭惡疫虐

二零零四年一月一日



おろ  
蠢か 元曲

狂、狂、狂

はり  
梁の上に跳び

からす さえぎ  
烏鴉が太陽を遮る

蠢かさ、悪、嘘

大いに暴かれる

嫉妬の火で心を攻められ、本性が現れる

ひきがえる  
蟾蜍は飛び跳ねても、煮え立つ油に下される

二〇〇四年一月八日

蠢 元曲

狂狂狂

跳上櫓

烏鴉遮太陽

蠢惡謊

大曝光

忌火攻心現原象

蟾蜍躡下油湯

二〇〇四年一月八日



かな  
哀しむなかれ

身は牢屋に臥すれども、傷み哀しむなかれ

正念正行、法有りて

幾多の執着の事を静思し

人心を捨て去れば、悪は自ずから敗る

二〇〇四年一月十三日

別哀

身臥牢籠別傷哀

正念正行有法在

靜思幾多執著事

了卻人心惡自敗

二〇〇四年一月十三日



ようこ  
腰鼓隊 元曲

腰鼓の陣

法中の神

ほつくせいせい  
法鼓声声、すべて真善忍

三界で悪を除き、世人を救い

雄姿の正念、天門を震わす

らんき いずこ のが  
爛鬼、何処にか遁れん

二〇〇四年一月二十二日

腰鼓隊 元曲

腰鼓陣

法中神

法鼓聲聲都是真善忍

三界除惡救世人

雄姿正念震天門

爛鬼哪遁

二〇〇四年一月二十二日



難

せんしんばんく  
千辛万苦、十五<sup>しゅう</sup>秋

誰か知る、法を正す苦と愁<sup>うれ</sup>いを

ただ衆生の救われ得んがために

こうび いた  
洪微を出さずば、決して諦めず

二〇〇四年一月二十二日

難

千辛萬苦十五秋

誰知正法苦與愁

只為眾生能得救

不出洪微不罷休

二〇〇四年一月二十二日



## しと 師徒の恩

狂悪は四年の<sup>つむじ</sup>颪風 <sup>かじ</sup>舵<sup>こう</sup>穩やかに航迷わず  
<sup>ほうと</sup>法徒、魔難を経て <sup>うっ</sup>重圧にも志移らず  
師徒は情を講ぜず <sup>か</sup>佛恩は天地を化す  
弟子の正念足れば 師は回天の力<sup>あ</sup>有り

二〇〇四年二月一日

## 師徒恩

狂悪四年颪 穩舵航不迷  
法徒經魔難 重壓志不移  
師徒不講情 佛恩化天地  
弟子正念足 師有回天力

二零零四年二月一日



## 神 目醒めよ

衆生よ、早く目醒めよ

中原に落穴が設けられた

すべては法のために来たのに

なぜ  
何故、理をはっきりと分らないのか

二〇〇四年二月十七日

## 神 醒

眾生快快醒

中原設陷阱

都是為法來

何故理不清

二〇〇四年二月十七日



## 天門は已に開く

佛恩<sup>こうとう</sup>浩蕩、衆生を済度す

大<sup>ダーファー</sup>法来て、乾坤を再造す

洪願にて、穹体天地固まり

微を正し、洪を正し、三才を正す

世人醒め、正念<sup>い</sup>出ずれば

萬古<sup>ばんこ</sup>の天門、此れから開く

二〇〇四年二月二十八日

## 天門已開

佛恩浩蕩度衆生

再造乾坤大法來

洪願穹體天地固

正微正洪正三才

世人能醒正念出

萬古天門從此開

二〇〇四年二月二十八日



## 何を恐れんや

あなたに恐れ有らば 它是<sup>ただ</sup>直ちに<sup>つか</sup>抓む

念を正にすれば 悪は直ちに崩れる

修煉の人 法を携え

正念を発すれば 爛<sup>らん</sup>鬼<sup>き</sup>炸<sup>さ</sup>く

神が世に在りて 法を実証す

二〇〇四年二月二十九日

## 怕啥

你有怕 它就抓

念一正 惡就垮

修煉人 裝著法

發正念 爛鬼炸

神在世 證實法

二零零四年二月二十九日



## 轉 輪

百年の紅朝、ひたすら人殺し  
乾坤が逆に運行し、中華を戯る<sup>たわむ</sup>  
今は紅花<sup>こうか</sup>の盛り<sup>さか</sup>が見らるるも  
他日蓮花<sup>れんか</sup>が咲くを、悟れるか

二〇〇四年三月五日

## 轉 輪

百年紅朝一路殺  
乾坤倒運戲中華  
看明此時紅花盛  
可曉它日開蓮花

二零零四年三月五日



## こう ごう 洪 劫

法はこうきゅう洪穹を正し、きゅうじん旧塵を除く  
天地はぼうぼう茫茫たるも、しよしよ処処に春  
悠悠たるばんこ万古の洪勢、過ぎれば  
再び新しい宇宙の佛道神を見る

二〇〇四年三月八日

## 洪 劫

法正洪穹除舊塵  
天地茫茫處處春  
悠悠萬古洪勢過  
再看新宇佛道神

二〇〇四年三月八日

